

ホームID	ホーム名	法人名	評価日
2804	アライブ久が原	株式会社アライブメディケア	H29.1.26
評価機関	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク		H29.2.10

評価結果

スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	B	B	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	B	B	6.2.4	A	A
1.2.1	A	B	2.3.8	非該当	非該当	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	B	A	6.2.6	A	A
1.2.3	B	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	A
1.3.2	A	A	2.4.1	A	A	6.2.9	A	A
1.3.3	A	A	2.4.2	A	B	6.3.1	A	A
1.4.1	A	B	2.4.3	A	A	6.3.2	A	A
1.4.2	A	A	2.4.4	A	A	6.3.3	A	A
1.4.3	A	A	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	A	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	A	A	3.1.1	A	A	7.2.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.2	A	A	7.3.1	B	B
1.4.7	A	A	3.1.3	B	B	7.3.2	A	A
1.4.8	A	A	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	非該当	非該当	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	A	A	4.1.2	A	A	7.4.4	B	B
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	A
2.2.3	A	A	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	B	B	5.1.1	C	C	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	A	A
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	A	A
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	B	B	5.2.3	B	B	7.6.1	A	A
2.2.10	A	A	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	A	C	5.2.5	A	A	7.6.3	A	A
2.3.1	A	A	6.1.1	A	A			
2.3.2	B	B	6.1.2	A	A			
2.3.3	A	A	6.1.3	A	A			

【評価機関の所見】

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所 見
2-1-2	ホームは、2016年度の基本目標・計画として、「自立支援に基づいた個別対応の充実」をはじめ3つの目標を定めて、職員・入居者へ周知している。また、サービスを実施する介護、食事、生活サービスの各部門においても、基本目標を受けて、それぞれに年間目標を設定している。加えて、目標達成のために優先順位を定めた詳細な実行計画を策定し、到達すべきゴールや期日を明確にする等、基本目標達成のためのしくみを整えている。
2-4-5	防災委員会を中心に、毎月、防災イベント・火災訓練・防災の勉強会等を実施し、職員や入居者の防災意識を喚起している。また、入浴介助時の災害への対応等緊急対応マニュアルの見直しの他、災害時の避難訓練を想定したDVDを入居者も参加して作成し、避難誘導が適切に行われたか等の検討を行って、災害発生に備えている。さらに、ホームの建物は、東京消防庁より優良防火対象物に認定され、職員の防災意識を高める動機となっている。
4-2-2	アクティビティは、入居者が参加できるプログラムを取り入れ、自主的に参加してもらうことで自立支援を促している。季節の行事の他、吉野体操・チェアエクササイズなど身体を動かすものや音楽療法・化粧療法・フラワーアレンジメント・書道・カラオケ・コンサートなど自分で選べるものも多数企画されている。レクリエーション企画書を立て、実施後は入居者の様子やスタッフの動きなど評価し、課題を次年度の企画にいかしている。
6-1-1	介護看護の目標である「自立支援に基づいた個別対応の充実」の実現に向けてホーム一丸となって取り組んでいる。他職種が参加するケアカンファレンスを月3回以上開催し、入居者の今の状況を見極め目標設定し、職員間で協力して入居者一人ひとりの希望を叶えるケアの充実を進めている。例えば、孫の結婚式や自宅の庭の手入れに付き添うなど支援することで、入居者のできることの幅が広がり、機能維持につながっている。

2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケール	所 見
2-2-11	退去時の原状回復規程については、入居契約書において、入居者の費用負担で行う原状回復の内容、方法については国土交通省による「原状回復をめぐるトラブルとガイドライン」を参考にして協議するものとするとしているが、その詳細については定義していない。退去時の原状回復に関するトラブル防止と入居者の安心のために、原状回復の詳細な定義と費用負担の明確化を図られたい。
2-4-2	本社作成のマニュアルは、食事ケアサービス、排泄ケアサービス、入浴ケアサービス、移乗・移動、認知症ケアなど多岐に渡っており、定期的な見直しは年間計画にも予定されている。また、ホームには、本社作成のマニュアル以外に、入浴の手順書や薬管理マニュアル等多数のマニュアルがある。しかし、これらの見直しについての明確なルールはなく、改訂日等の記録がなされていない。本社マニュアルに準じた更新ルールの策定に期待したい。
5-1-1	毎月その月に因んだ行事食を計画し、記念会席弁当・端午の節句膳・紫陽花御膳などの他、おでんの屋台やその場で握る寿司祭りなど提供している。また、桜餅・抹茶どら焼き・パンケーキなど入居者が参加するクッキングも実施している。各種アンケートやヒアリングで入居者から出た要望が叶うよう多職種が参加する毎月の食事会議でメニュー等検討しているが、現在、選択食は実施していない。入居者が自分で選ぶ楽しみも味わえるよう検討されたい。
7-3-1	入居者の心身状況に合わせ、個浴・チェア浴・リフト浴などから浴槽を選べ、入浴をシャワー浴や清拭など代替手段に変更する他、曜日の変更もできる。入居者がリラックスして入浴できるよう、音楽を流し、観葉植物を置き、季節湯として、菖蒲湯やゆず湯も取り入れている。現在、9時30分から17時の所定時間以外は実施しておらず、朝・夜など入居者の入浴希望へも対応できるようにさらなる取り組みが望まれる。